

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475501417		
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	南光台ケアセンターそよ風 グループホーム	ユニット名	なし
所在地	仙台市泉区南光台南2丁目26-20		
自己評価作成日	平成29年 2月16日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成29年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

南光台の高台に位置し、眼下には左右に広がる住宅街を見渡せ、遠景には泉ヶ岳・大和町の七ツ森・県民の森など望む事が出来る。裏庭には、入居者様と一緒にガーデニングをするスペースがあり、毎年花や野菜を植えて楽しんでいる。地域との関わりも大切にし、町内会行事への参加・中学生職場体験・ご近所住民参加の災害訓練・SOSネットワークへの参加など行っております。毎月の外出や外食は入居者様の希望・要望を取り入れ、楽しみの一つとなるよう企画しています。また、センター行事として、そよ風祭りや解体ショーなども行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは南光台の高台に位置し、眼下には住宅や商業ビルが見渡せる景色の好い場所にある。東日本大震災での炊き出し支援を機に地域との信頼関係が強まった。ボランティアの来訪、子供神輿、中学生の職場体験受け入れ、ホームの防災・避難訓練への住民参加、徘徊の事故防止を狙ったSOSネットワーク加盟等、地域と深い関わりを持っている。外出時の駅弁フェアや美食祭り、魚の解体ショーなど外出や食事にも知恵出して入居者が喜ぶ企画をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 南光台ケアセンターそよ風)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との関わりを大切にし、温もりのある環境で、一人一人が自分らしく生活できるよう支えます」を理念とし、職員の目につく場所に掲示し共有に務めている。	年度末のミーティングで理念を振り返り、次年度どうするかを決めている。地域との関わり重視を盛りこんだ理念を事務所に掲げ、中学生の職場体験受け入れや町内会活動に積極的に参加している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会行事の参加やゴミ集積所の清掃などを通し地域の方たちと交流している。また、施設の防災訓練の時には地域住民の皆様も参加している。	東日本大震災の際の炊き出し等で地域との絆が強まり、町内のボランティアの来訪、防災訓練への近隣住民参加等に繋がっている。ゴミ置き場掃除当番の時は、職員と入居者が一緒に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	南光台中学校、南光台東中学校の職場体験の受け入れをしており、認知症を理解する場として生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の最終土曜日に開催している。施設の現状報告や、取り組みについての報告を行い、ご意見を頂いている。	町内会長・民生委員・地域包括職員・家族代表の構成で隔月開催している。事業所報告の後は意見交換があり、地域包括からは介護保険制度の動向に関わる説明がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域圏域会議や地域運営推進会議を通して、地域包括支援センターの方々と情報交流を図ると共に協力関係を築けるよう取り組んでいる。	地域包括センター主催の地域圏域会議に出席して情報収集に努めている。認知症カフェには参加の方向で検討している。生活保護対象者の受入は市の担当部所に相談しながら進めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物が道路(市道)に面しているのと、斜面が急な為、安全に配慮して玄関の施錠とアジャスターロックを設置している。外に出たい入居者様には、可能な限り職員が付き添うよう務めている。	身体拘束・虐待防止委員会を2カ月毎に開催し、事例研究を行っている。教材をもとに〇×のチェックをし、ケア技術向上を図っている。隣地が急勾配の坂の為、安全対策として居室窓にアジャスターロックを取り付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センター内で身体拘束・虐待防止委員会を開催し、2ヶ月に1回各部署の担当者が集まり、事例がないかを検討し、話し合いを行っている。また、職員研修の資料の作成と研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人をお願いしている。ミーティング時の研修に取り入れ理解を深め活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み前に、ご本人様とご家族様に、施設内見学と説明をさせて頂いている。契約の際にも十分に説明を行い、理解・納得を図り署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望窓口として、玄関に意見箱を設置している。その他にも、満足度調査アンケート・家族会・ご家族様の面会時などに、ご意見・ご要望を伺い、運営に反映させている。	事業所からの家族アンケートや来訪時の職員との話し合いで家族の意見・要望を聞いている。外出機会を多くとの要望も踏まえ、外出機会を増やすためにデイ・ショートでのイベントに参加することもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや全体会議、申し送り時を利用し、意見や提案を聞いている。ミーティング時に情報を共有し、ケア等に反映させている。	月例のカンファレンスやミーティングで職員の意見・要望を聞いている。雇用契約更新の際は、事業所が個別に職員と対話し、意見要望を聞く機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談及び随時面談を実施し、各職員が意欲を持って業務に取り組めるよう実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ研修を受け各職員の介護力の向上に努めている。研修内容はミーティング等で他の職員とも共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域圏域会議や病院主催の認知症の会合にも出席し、他の施設や地域の方々との交流を図っている。また、SOSネットワークにも参加し、行方不明者の捜索にも協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	来所相談、訪問(実調・オリエンテーションなど)でゆっくり話をする時間を作り、入所後も常にコミュニケーションを図り、信頼関係を構築し、相談・要望が言いやすい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談・入居申し込み時に、要望等について十分話をする中で、現状の把握に努め、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談ニーズに合わせ利用可能なサービスの検討を行っている。申し込みの中から緊急性の高い方から優先的に入居できるよう取り組んでいる。入所判定会の際には、家族の状況も踏まえ入所決定を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、掃除・食器拭き・洗濯物たたみ等の日課を通して、家事のやり方などを教えてもらったりしている。季節ごとの行事には、飾りつけなども一緒に行っている。共に支えあう関係になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を行い、家族が担当出来る事は相談しお願いしている。家族に無理がかからない範囲で、共に支えあう関係になれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊は、当日でも対応できるよう支援している。馴染みの病院や美容室なども入居前と変わらず利用してもらい、馴染みの関係が途切れない様に努めている。	家族と一緒に夕食や自宅への外泊を勧めている。馴染みの美容院に出張美容してもらい、化粧やネイルアートをやっていただき、喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の入居者様の様子や会話を通して、入居者様の心身状況を把握し、トラブルや孤立することなく関わられるよう支援している。場合によっては、職員が中を取り持ちながら、関わり合うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の家族の相談・施設として出来る事の情報提供を行い、本人様・ご家族様が困らないよう支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様に寄り添う会話を心掛け、その中から食べたい物、やりたい事等を引きだし、行事・日課などに反映させている。自分で表現できない入居者様には、ご家族様からの情報を参考にし、支援している。	入浴時など1対1となる時に、思い出話や食事の好み・行きたい所などの会話を通し、思いや意向を掴むよう努めている。デイやショートからの入居者には当時の状況も聞いてケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実調で、家族・本人・在宅時の介護支援専門員から情報を貰い、馴染みの暮らしや、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護支援経過や家族支援経過を通して、一日の過ごし方を把握するよう努めている。心身状態や出来る事などの把握は、毎月のケアカンファレンスで職員全員で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンス・担当者会議にて、課題について話し合い、3ヶ月ごとモニタリングを行い援助計画書に反映させている。	モニタリングは全担当者で行い、3ヵ月毎の支援計画見直しに反映させている。家族から好物が天ぷらと聞き、メニューに入れるよう計画書に反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過や申し送り等により、日々の様子やケアの実践の情報の共有に努めている。毎月のケアカンファレンスを行う事により、援助計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の身体状態によっては個別浴槽での対応が困難なケースもあり、その場合は敷地内が複合型施設である事を活かして、機械浴で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元中学生による職場体験や地域の町内会の行事の参加を通し、地域の一員である事を感じ、暮らしを楽しめるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族希望で往診クリニックで定期受診している方が2名、家族通院の方が7名いる。通院時には、入居者様の状態を伝え、必要であればサマリーを作成し、適切な診療を受けられるよう努めている。	かかりつけ医は本人や家族の希望を尊重している。通院介助は家族にお願いしている。ホームはサマリーの作成や同行の代行等を行っている。かかりつけ医とは適切な診療が行えるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携で週に1回看護師による健康チェックを行っている。体調で気になる事などはそのときに相談し、入居者様が適切な受診や看護を受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、入院先へ既往歴・普段の様子などの情報提供を行い、面会時には入院中の様子・症状等の情報や退院後の相談を行い、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針」を基にグループホームで出来る最大限の支援を行う事をご家族様に説明している。協力医療機関としては仙台オープン病院との連携を図っている。	入居の際に重度化や終末段階での対応を「指針」により説明している。特養ホームの紹介を行っている。重度の状態においては家族や医療機関と連携し、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時フローチャートを掲示し緊急時に備えている。ノロウイルスやインフルエンザ等の対応も定期的に講習を行っている。AEDの講習も行い初期対応に実践できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を実施している。近隣の地域住民の方々にも参加して頂き、避難の際のお手伝いや、水消火器を使っての初期消火の訓練にも参加して頂き、災害時に協力体制が図れるようにしている。	近隣住民等の参加を得て、避難誘導等の災害対策を行っている。訓練の教訓を次回に繋げるための記録保存の目標達成計画が継続出来ていないことから、再度目標に掲げ取り組まれない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の虐待にならないよう注意して対応している。特に命令口調にならないよう、言葉使いには気をつけている。排泄の声掛けなども、羞恥心を配慮し、小声で話すなど対応に気をつけている。	入居者や家族の意向もあり、苗字呼びを原則としている。失禁時はさりげなくトイレや居室に行く等、誇りを傷つけないよう支援している。スピーチロック・ネグレクトとならない言葉使いに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中での思いや希望を、聞き漏らさずに記録に残し、自己決定するときの材料としている。自分の思いを伝えるのが難しくなってきた方に対しては、声掛けの回数を増やすなどの対応をして、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前の生活習慣などを変えることなく生活してもらう為に、ご本人様とご家族様に相談し、生活リズムを考えている。入浴や散歩などもその日の希望により行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の着替えを自分で選んで貰うことで、一人一人の好みや思いを理解し、自分らしいおしゃれが出来るよう支援している。また、訪問美容師による、カット・ネイル・化粧などのイベントも行いおしゃれを楽しめる環境を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行っている。毎月の行事食の駅弁や美食祭りは、入居者様の楽しみのひとつになっている。また、レクリエーションとして、全員での芋煮汁作りやおやつ作りなども行っている。	食事支度の他に、外出時は駅弁フェア、おやつ作り、月例の美食祭りなど食事に楽しみの工夫している。時々はい・ショートの利用者と一緒に鮭や鰹等を仕入れての解体ショーを実演している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月栄養士が献立を考え、それを提供している。水分摂取量や食事摂取量を記録に残して状況を把握できるように努めている。食形態も入居者様の状態に合わせ、きざみ食・ミキサー食の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた口腔ケアを実施している。本人が出来る事はして頂き、仕上げ磨きを職員が行うよう支援している。希望により、週1回の訪問歯科による、口腔ケア・口腔体操も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を通して排泄パターンを把握できるよう努めている。その日の服薬の状況によって、声掛けの時間を変えたり、行動を見て声掛けをしたりとその方に合わせた支援をするよう努めている。	入居間もない方は、一週間の観察で排泄パターン表を作り、排泄の把握をする。浮腫がある方には利尿剤服用を勧め、パット交換やトイレ誘導を早める支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取してもらうために、嗜好にあった飲み物の提供を行っている。朝食時には毎回ヨーグルトを提供し、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っている。入浴剤も3種類用意し、好きなものを選んでもらうようにしている。入浴拒否がある場合は、時間をずらしたり、ほかの日に入浴するなど、一人ひとりにそった支援をしている。	水曜日は行事日に充てて休み日としている。季節感と楽しさを促すため、柚子湯・薔薇湯・檜湯、冬場は足湯もしている。入浴を嫌う方には日時や介助者を変える等も行って週2～3回の入浴である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的にリネン交換を行い、清潔な寝具で休んでもらう事を心掛けている。起床時のベットメイクは布団をめくった状態にしておき、一人でも布団に横になりやすい様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのケースファイルに、最新の調剤薬の説明書を閉じている。職員はいつでも閲覧でき、服薬の目的・効能・副作用の理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来る範囲でお手伝いをする事で、自分の役割を感じてもらえるよう支援している。以前の趣味などが出来なくなってきた方には、一緒に歌を歌ったりなどの楽しみを提供し、気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月1回外出と外食のレクリエーションを行っている。地域の行事・誕生会のケーキの買出しなど入居者様と外出する機会を増やせるよう努めている。	毎月1回以上の四季の催事を楽しむ外出やイベントを計画実行している。ホームでも運動会・芋煮会等屋外行事を計画し、町内の子供神輿を迎えた時は、外に出て声援を送っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望で、お金を所持している入居者様はおりません。但し、外出時にお土産を買ったりするときは、ご自分で清算してもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様より希望があった際には、電話が出来るよう支援している。携帯電話をお持ちの入居者様もおり、好きなきにご家族様と話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やフロアには入居者様と作った作品を飾ったり、季節のものを飾ったりと、生活感があり居心地の良い環境になるよう工夫している。また、外出時の写真なども掲示している。	広間の壁には外出時の写真や貼り絵等が飾られており、季節感を感じる飾り付けも行っている。様々のくつろぎ方が出来る様、廊下や玄関脇等にソファも置いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座りゆっくりテレビを見られるようにしたり、廊下や玄関にも独りになれる椅子やテーブルを設置し、一人ひとりが思い思いに過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や椅子の持込を、ご本人様が居心地よく過ごせるよう配慮している。ベットは備え付けがあるが、希望があればベットも持ち込んでもらっている。	ベッド・整理タンス・洗面台を備え付け、広さも確保している。持ち込んだ馴染みの家具・写真・飾り付け等により個性を出している。掃除は残存能力を引き出し、職員も手伝い、清潔さを保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には、入居者様の写真や表札を貼り、自分の居室とわかるようにしている。トイレにも目印をつけて、自分で行けるように工夫している。		